

## パブリシティ ＜学生の活動＞

2016年4月以降、関心を集め、テレビや新聞で取り上げていただいた学生の活動の一部を紹介します。

### ◆「Vote at Chuo!!」が選挙権年齢引き下げに伴う投票権の啓発活動を実施

「Vote at Chuo!!」は、「中大生3万人が当たり前に考えて投票に行く文化を創る」ことを活動の理念として、2015年4月に設立された中央大学の学生による団体です。選挙権年齢引き下げに伴い、「Vote at Chuo!!」が、6月から7月にかけて9日間、多摩キャンパスにて選挙に関する案内や不在者投票の案内など、投票権の啓発活動を実施しました。2016年度、新聞社やテレビ局など約10社より取材の依頼が相次ぎ、複数回にわたり活動の様子が取りあげられました。



### ◆サークル「中大多摩キャンパスを都心に近づける会」のユニークさが各紙に取りあげられています

「中大多摩キャンパスを都心に近づける会」は、東京の東側などから遠距離通学をする学生による、多摩キャンパスをくづいて都心に近づけようとするサークルです。多摩キャンパスにある施設を都心方面に手で押し、その写真をツイッターで発信、「測定結果は0ミリでした」とつぶやく。ツイッターのフォロワー数は3,500人を超えています。ユニークな学生の活動が、産経新聞(2016年4月4日付)、東京新聞(2016年5月9日付)、毎日新聞(2016年9月8日付)に取りあげられ、「卓越した個性」と表現されています。



### ◆熊本地震発災後、学生たちがボランティア活動に動き出しました。4月より継続して今でも活動を続けています

発災後、ボランティアセンターに多くの学生から「募金活動をしたい」との申し出があり、校内での募金活動を行いました。募金箱を多摩キャンパス、後楽園キャンパスに設置し、校内での呼びかけを4日間実施し、総額29万6,328円を被災地NGO協働センター、社会福祉法人中央共同募金会へ送金しました。

また、「大学生パフォーマーによる熊本地震・チャリティイベント」として、学内の団体が被災地を思って演技を行い募金を呼びかけるなど、学外での募金活動にも取り組みました。

その後、現地でのボランティア受け入れ態勢が確立されてからは、現地への送り出しも開始。熊本県阿蘇郡西原村に3度学生らが足を運び、足湯ボランティア、農業支援ボランティアを行いました。

ボランティアセンターでは様々な被災地支援ボランティアを行っており、東北での活動は今年で5年目となりました。東北の被災者は自分たちの代わりに学生たちに熊本に赴いてほしいと願っています。そのような方たちの思いを実現すべく、「東北の思いを熊本へ」として、熊本県でのボランティア活動も継続されています。

### ◆『未来(あした)への道1000km縦断リレー2016』の最終日に応援部がパフォーマンスを披露しています

学友会体育連盟応援部が、『未来(あした)への道1000km縦断リレー2016』最終日の8月7日(日)に、ゴールとなる東京都立上野恩賜公園「Rioライブサイト会場」において、ゴールするランナーへの応援と式典のオープニングの2回にわたりパフォーマンスを行いました。『未来(あした)への道1,000km縦断リレー2016』は、青森から東京まで東日本大震災の被災地をランニングと自転車をつなぐリレーを開催し、全国から集まる参加者と被災者の方々の絆を深めるという目的で行われた15日間のイベントです。

本学は今後も東日本大震災における復興をできる限り支援してまいります。

### パブリシティ ＜教員の活動＞

多くのメディアに登場いただきました  
中央大学Webサイト内パブリシティ掲載 2016年4～9月  
テレビや新聞などに多く登場した教員と、おもなテーマをご紹介します。

- ◆ 法学部准教授 海部 健三 <保全生態学>  
テーマ：ニホンウナギの保全と持続的利用について
- ◆ 経済学部教授 佐々木 信夫 <行政学>  
テーマ：東京都知事選、築地市場移転問題
- ◆ 理工学部教授 山田 正 <河川工学、水理学>  
テーマ：洪水や台風などの水災害
- ◆ 理工学部教授 戸井 武司 <音響工学>  
テーマ：自動車など精密情報機器から発生する動作音の「快音化」
- ◆ 文学部教授 山田 昌弘 <家族社会学>  
テーマ：現代社会における家族の個人化や格差社会、少子化
- ◆ 総合政策学部准教授 宮下 紘 <情報法>  
テーマ：忘れられる権利
- ◆ ビジネススクール教授 佐藤 博樹 <人的資源管理学>  
テーマ：介護休業や育児休暇など働き方の多様性